

---

# 創造の使い魔

糞眼鏡次郎

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

創造の使い魔

### 【Zコード】

Z38660

### 【作者名】

糞眼鏡次郎

### 【あらすじ】

鍊成 + トリスティン + モブ貴族。アンチ女王様。オリ主が色々頑張ってくれます。

## プロローグ（前書き）

始めまして。糞眼鏡次郎と申す輩です。  
ノリで投稿しましたがもはや三番煎じ臭いです。  
とりあえず完結まで頑張ろうと思います。よろしくおながいします。  
( ; )

## プロローグ

「世界構成に必要な要素って何か知ってるか?」

「はあ? なにいってんだお前」

ここは色のない、例えるならば白い空間

俺は目の前にいる、白髪で顎や耳に赤いピアスを付けおまけにアルミフォイルに包まれたパイプをふかしてるオサレでヤヴァイ男に、そう言つた。

とか言われても大半が理解に苦しむと思うので説明するとまず、俺の名前は、折崎廉徹(おりさきれんてつ)。極普通の永遠の中學(本当は高校)生だ。

で、目の前で小難しい単語並べてんのは、自称天上人。なんかこう、色んな人に謝つて欲しい格好をしている。

そんで、何でそんなやつが俺の目の前にいるのかといえба

「答えは「うんこ」だ。二次元なら絵。三次元なら粘土や自分で出せばいい。要は“そこ”具現出来れば糞でも何でもいいのや。」

「ワケわからんねえ……俺はうんこと一緒にってか? ザけんな。」

まあ、さつきからこんな感じだ。話を聞くにはどうやら俺は死んだらしい

俺が学校から帰っているといきなりトラックがつっこんできて、俺を綺麗に跳ね飛ばした。で、気付いたらここにいて、天上人（自称）にこんな意味不明な話を聞かされている。

【冗談じゃない。なぜこんなデタラメな場所に呼び出された上、こんな会話をしなきゃならん。そういうのは、どつかの偉人や宗教の

専門家とやつてゐる。

なんてことを「ぢぢや」「ぢぢや」言いあつて数分経つていて……今に至る

「正しくはないが、間違つてもいい。俺らの仕事つて訳だ」

「……小学生かお前は。それで？　俺がここにいるのと何の関係があるんだ？」

「あると言えばあるな。お前はもう前の「ひとい」から綻びた存在。今  
じゃ「ひとい」の悪臭のよつなもんだからな」

「おい、その汚い例えやめや。で、俺はまだなるんだよ？ 消されるのか？」

よく分からんが、この状況はマズい。俺もしかして消滅するのか

「いや。うそじがはみ出たら汚いじゃん?だから欠けてるうそじに  
嵌め直す」

「だから俺を「ん」みたいに言つなー!?」

こいつ、人の事をなんだと思ってやがる！？

「というわけだから、今からお前を違つてここに飛ばす。なあに、安心しな。前よりも面白い世界だから」

「誰がいつそこ気にしてた!?」  
テメエ、いい加減に

と、俺が言い終わらない内に、いきなり俺の身体が透けてきた。  
いや、いやいや！？ ちよつと待てよ！

「おー」「勝手に飛ばすな！」

「あ、分かった！ なんだ新しい友達が出来るか心配してんのか？  
よし大サービスだ、なんか能力やるから」

「なんこと一言も言つてね-----」

俺の苦情も虚しく、やがて俺の身体は完全に消えた。  
あの糞野郎憶えてるよー いつかゼッテーぶつ殺す！

目が覚めると、そこは見覚えのない豪華な部屋だった。  
「……知らない天井だ」

いや、なんか もう天井つていうレベルじゃないけど。装飾すごいなあ  
……じゃなくて！

「つーか、本格的にどこだーーー？」

俺は咳き、ベッドから降りる。つていうか物凄い広さだけどー！？  
教室ぐらいありそ  
どうしたもんかとぼーっとしてると、部屋にあつた机に、一枚の

手紙を発見した。

「なんだこりや？」

俺がその手紙を開くと、

『よお、廉徹。まずは息子が朝立つてどころか？ まあ、解つてるのは思うが、俺だ。で、早速なんだが説明するぞ。

お前が今いるのは、さつきもいつたように異世界だ。だが、安心しろ。形は一緒だ。一足歩行だし。兎に角、お前には「」で第一のライフ（つつても失つた時間戻らんが）を過ごしてもらひ。ああ、その部屋はある学院の寮室だから。お前の身体だが、適当に精神崩壊させした人間の身体を乗つ取つたから、今日から貴族な？よかつたな。お前人生勝ち組だから。

で、最後にお楽しみの、能力の説明だ。すばり、「鋼の鍊金術師」にでてくる鍊金術だ。両手合わせて、イメージしながら物質に当てたら、練成できる。まあ、世界構成が違うから制約は存在するがな……まあ自分でガンバレ。

ん~、こんなもんだな。じゃあ、がんばって友達作れよ

ちなみに、この手紙は数分後、燃えて完全に消滅するぜ（はあと『

「…………」

言葉も出なかつた。なんかもつ、ツツコツ所がありすぎで。そうやって、しばし啞然としていると、

ガチャツ

室内にメイドさんが入つてきた

「……なんでしょうか」

「あつ。ステイックス様でようじでしょうか?」

「そつすけど、あんた誰?」

「もも、申し訳ございません。わ、私は、この学院のメイドとして雇われているシエスタです。あ、あの、先程通りかかった所にこの部屋から凄い悲鳴が聞こえましたので…」

シエスタさんの話を聞くと、どうやら俺は、断末魔みたいな悲鳴を上げていたらしい。

凄い恥ずかしい。もしかして精神崩壊させたのか?あの糞野郎他にも色々聞いてみると、どうやら明日から授業が始まるらしい。シエスタさんは悪夢を見たとか言ってなんとかごまかして出ていつて貰つた。

「明日からつつても、制服とか、知識とか問題がないのか」

俺が机の隣に手を向けると、制服がハンガーで吊つてあった。頭で思い出そうとするが、前の俺の記憶や知識が思い出せるようになつてた。

「前の俺、キルケつて人が好きだったのか…なんかゴメン」

「さて……しかたねえ。とりあえず明日から頑張るか」

俺は一つため息をついて、そう決意した。

それにも……、

「シエスタとかキュルケって、なんか聞いた事あるような……」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3866o/>

---

創造の使い魔

2010年10月18日16時29分発行